

[インダス文明]

(紀元前2500年頃)

[] 川流域に都市を中心とした文明



() など

・ [] 文字

紀元前1000年頃 中央アジアから () 人が進入し、
先住民を征服し、 [] 川流域まで
進出した。

- ・ [] の使用
- ・ 10あまりの国を作る
- ・ きびしい身分制度 [] 制度
(_____, 王族と武士, 平民, 奴隷)

インドの数学

古代インド人は、数学において数の表記(アラビア数字)、10進法の使用、ゼロの発見という大きな貢献をした。ゼロの発見は紀元前2世紀のことで、これら三つを含む数の表記の仕方は、5世紀には確立していた。インド人はゼロを1, 2, 3...と同じ「数」と考え、今日の0から9にあたる10個の数字だけを用いてすべての数を書き記した。そして世界で最初に10進法を位取りで、すなわち数の位置で桁を表すやり方で表記したのである。これらをアラビア人が学んだ。アラビアで最初にゼロが使われたのは873年である。アラビア人はこれらをさらに西洋に伝えたが、西洋でこのような記数法が一般的になるのは、15世紀以降のことであった。なお中国人は、10進法を仏教の僧侶から習った。

仏教

紀元前6世紀頃 釈迦(シャカ)が () を開いた。

「人はみな平等であり、心の迷いを取り去れば、
誰でも苦しみから救われる」



インド各地に広まる



ガンダーラ地方では、仏像・仏画などの () が栄えた。



中国や東南アジアに伝えられたがインドでは衰えた。

釈迦(シャカ)

(B.C.463年?~B.C.383年?)

ヒマラヤ山麓のシャカ族の王子で、本名はガウタマ=シッダールタ。29歳で出家し、35歳で菩提樹の下で悟りを開いた。それ以降ブッダ(悟った者)と呼ばれ、45年間教えを広めて80歳で死去した。

当時のガンジス川流域では、鉄器の普及で農業生産が増し、新しい都市がおこって商業も発展した。これらを背景に、王族・武士はバラモンに抵抗し、平民も社会的な地位を高めようとした。シャカが身分制度を否定し、人間の平等や慈悲を唱えて、身分に関係なく信者を迎えたので、その教えは特に下層の人々に広まったのである。